

【新刊紹介】

NATURE

Vol. 240 No. 5378 November 24. 1972.

「Nature」の1972年11月24日号が、日本の科学に関する特集を行なった。

Nature は単行本ではなく、新刊紹介のこの欄には、ふさわしくないかも知れないが、ユニークな特集でもあり、大方の参考になればと、以下に紹介する。

収録されている論文は、次のとおりである。

1. Prospects for Science in Japan

特集のまえがきに当るもので、収録論文についての概括的な説明が行なわれており、日本の科学の現在かかえている問題を展望することができる。

2. The Way Ahead for Japanese Science Policy; Yasuhiro Nakasone

環境汚染の問題にふれ、科学・技術の進歩と生科学との釣合を取り戻すことの必要をのべ、“Soft Sciences” なかんづく“Life Sciences”の振興を提唱している。

3. The Organization and Activities of the Science Council of Japan; Yuichi Ochi

第2次世界大戦以後に創設された日本学術会議の活動と役割について、歴史的な背景とともに説明されている。また、日本における科学部門の長期計画にもふれている。

4. An Exile's View of the Contemporary Scene; A. Sibatani

著者は6年前に日本を去った人で、その著者の眼をとおして、

1) 西洋から導入された独創的な科学と日本古来の慣例との背反。

2) 自国の科学と技術の間の重要な不均衡。

3) 科学に関する基本的なフィロソフィーの再評価が必要。という日本の科学が今日直面している三つの問題について論及している。

5. Unrest in the Japanese Universities; Haruo Katsumuna

東大紛争を中心として、日本の大学内の学生紛争の原因と結果について総括的に述べている。

6. Scientific Research in the Universities; Yoshinobu

Kakiuchi

日本の公私立大学における科学・技術の研究状況について論じている。大学の調査・研究が日本の産業に与えた役割についても論及している。

7. Natural Disasters in Japan; Kazuhiko Terada

洪水、地すべり、豪雨、豪雪、地震、津浪、台風など日本の自然災害について説明している。

8. The National Research Centre for Disaster Prevention; Masami Sugawara

約10年前に創られた国立防災科学技術センターの業務について、地震実験、河川流量と降雨などの問題を中心に記述している。

9. Problems of Predicting Earthquakes; T. Rikitake

地震研究所における地震予知に関する研究を中心に、日本の地震予知に対する取り組みを記述している。

以上の論文の他に、

Japan's Electrotechnical Laboratory; F. Mori

Oceanography in Japan; K. Hidaka

Marine Technology in Japan; Hidetsugu Ishikura

Amino-acid Production by the Fermentation Process;

Shukuo Kinoshita

Development of Cardiac Surgery in Japan; Shigeru Sakakibara

Pattern Information Processing System Project; Gilbert Devey

Japanese Railways on New lines; Hideo Shima

Japan in Space; Hideo Shima

Calcium Ions and Muscle Contraction; Setsuro Ebashi

Activities of the National Institute of Genetics; H. Kihara, が収録されている。

このように「Nature」が大部分の紙面をさいて、日本における学術研究について、特集を行なったことは、日本の科学が国際的な注目を浴びているあかしと見られ、われわれにとっても興味ある特集といえる。

(山田文雄)